



木もれびの森の野鳥たち 3月

＜木の芽が動き出し、虫や鳥の出番です＞

2月、雪の降った翌日、森の下草の上には雪がだいぶ積もっていました。通路沿いだけ雪がとけ、土がのぞき、そこにシジュウカラやツグミたちがくちばしで土や落ち葉を払いながら、中から小さな実を見つけては食べていました。シデの木の枝先では、まだ硬い冬芽をついばむカワラヒワ。杉の幹に器用に止まり、樹皮の間の小さな虫を探すウグイス。ウメやツバキの花を見つけて、メジロやヒヨドリが蜜を吸いに。みんな命をつなげるために必死でした。

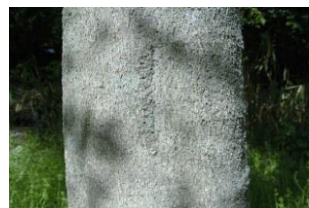
3月、木の芽も少しずつ動き出し、それにあわせ虫たちも冬眠から目覚めます。野鳥たちも早くよいペアを作るために、雄はラブソングを歌い、自慢のしぐさで雌にアピールです。シジュウカラが2羽で追いかかけあったり、虫をプレゼントしたり、モズが雌にダンスを見せたりする場面に出会えるのもこの季節です。冬鳥のツグミやシメたちは、渡りに必要な栄養を蓄え、メタボのようなお腹になり、旅立つ日もま近となりました。木もれびの森の野鳥たちも、これから短期集中の子育てへ忙しいときを迎えようとしています。(瀬尾)



こもれびの樹木(12)

こもれびの森の樹木に樹名板を取り付けて2年を経過し、28種のうち22種の樹木を紹介してきました。今回は公園や街路樹でおなじみのニレ科のエノキ、ケヤキ、ムクノキを取り上げます。

エノキ(ニレ科エノキ属)は落葉高木で樹高20m、直径1mほどになり、よく枝分かれして、樹冠は横に広がります。樹皮は黒灰色で斑点状の凹凸があり、割れないがざらつくのが特徴です。葉は互生、長さ4~9cmで、鋸歯は上半部にあり、葉脈が3本に分かれているのが目立ちます。名前の由来は器具の柄に使われた等とも言われています。昔、一里ごとに植えられ、今も各地に大木が見られます。葉は日本の国蝶オオムラサキの幼虫の餌になることでも知られています。



ケヤキ(ニレ科ケヤキ属)落葉高木、樹高20~25mで大木は30m以上にもなり、日本の代表的な木の一つで相模原市の木に指定されています。樹皮は灰白色、なめらかですが、老木になると鱗片状に剥がれます。葉は互生、長さ3~7cm、鋸歯は葉の下部まであります。

花は雌雄同株で4~5月に葉の展開と同時に開花します。用途は材が白く木目が美しく狂いがないので、重要な材とされています。江戸時代では社寺の建築材として使われました。現在ではお盆、家具、楽器、彫刻材等に利用されています。



ムクノキ(ニレ科ムクノキ属)落葉高木、樹高15~20m、直径1m程になります。

樹皮は灰褐色でなめらか。老木になると鱗片状に剥がれ、基部は鳥の足のような板根状に広がるのが特徴です。葉は互生、長さ4~10cm。花は雌雄同株、4~5月に葉の展開と同時に開花します。材は強靱なので建築材、器具材に使われ、昔は天秤棒などにも利用されました。(林)



萌芽更新区樹木調査

2001年3月に伐採したC-A/C-Bの更新区の調査、2011年1月2月3回に渡って5年ぶりに行いました。毎年行っている下草刈の成果もあって、萌芽枝は樹木として成長しています。

クヌギやコナラが主であったのですが、鳥の運搬によって実生で育ったものもあり、低木で間伐され萌芽しているものもあり、順調に森を形成していきそうです。

C-A区のシンジュ(ニワウルシ)は成長が早く実生でどんどん増えている状態です。自然の勢いに感心させられた調査でした。(野口)

C-A区 樹種

コナラ・クヌギ・ゴンズイ・エゴノキ・クサギ・ガマズミ・ムラサキシキブ・マユミ・クリ・エノキ・コブシサンショ・ムクノキ・ヒメコウゾ・ウワミザクラ 総数51本 (A区の中で一番大きく成長しているものはコナラで、樹高10m・幹周り50cm)

C-B区 樹種

クヌギ・コナラ・マユミ・エノキ・ヤマザクラ・ニガキ・コブシ・エゴノキ・タムシバ 総数51本(B区の中で一番高い木はクヌギで樹高13m、一番太い木はコナラで幹周り60cm)



森の冬景色

2月11日寒波がもたらしてくれた雪、12日の作業日は寒さの中で美しい冬景色を楽しむことも出来ました。常緑のヤブランやジャロヒゲは乾ききった空気の中で、思わぬ雪の恵みに緑を輝かせているかに、私には見えました。キチジョウソウの赤い実も雪の中で密かに美しく凛としていました。

いずれやってくる鳥たちのために、人目を避けるように実をつけ、森に福を呼び寄せているのでしょう。「吉祥草」の名にふさわしい森の野草ですね。

落ち葉の中で懸命に春を待つフデリンドウの姿も、植物好きのチームの仲間が見つけた、春への贈り物と感じています。(野口)



木もれびの森A区



ヤブラン・ジャロヒゲ



キチジョウソウ



フデリンドウの芽